

腎臓リハビリテーション導入後のADL評価

医療法人 社団 茨腎会 太田ネフロクリニック 医療法人社団 茨腎会 太田ネフロクリニック

看護部 ○横山 和子 鈴木 教正 宇野 美幸 看護部 ○横山 和子 宇野 美幸 鈴木 教正 山中 祐治
二階堂 剛史 上野 智敏 酒井 伸一郎 二階堂 剛史 上野 智敏 酒井 伸一郎

【はじめに】

腎臓リハビリテーションの介入はサルコペニアの予防に重要である。

今回、当院で運動療法を行っている患者に機能的自立評価法（Functional Independence Measuer 以下 F I M）を用いて A D L 評価を行ったので報告する。

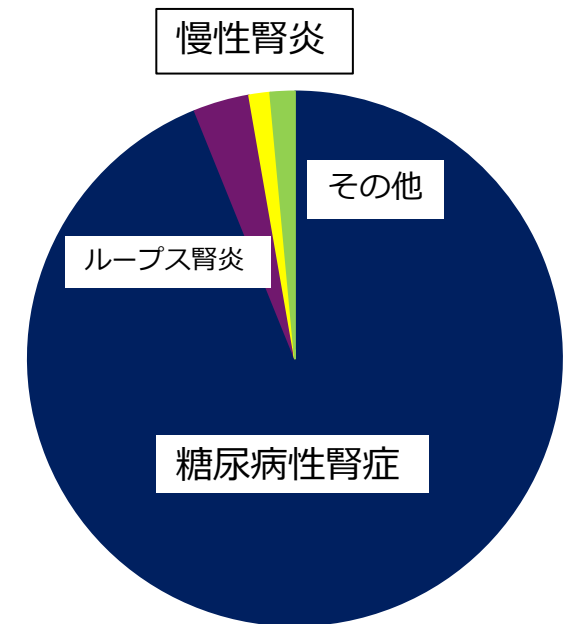
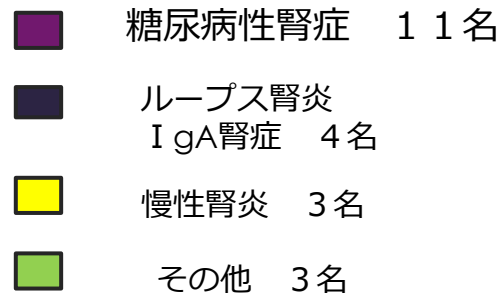
【対象】

当院外来透析患者より21名
(男15名 女6名)を選出.

平均年齢 76.2歳

透析歴 0～10年

透析回数 週3回.



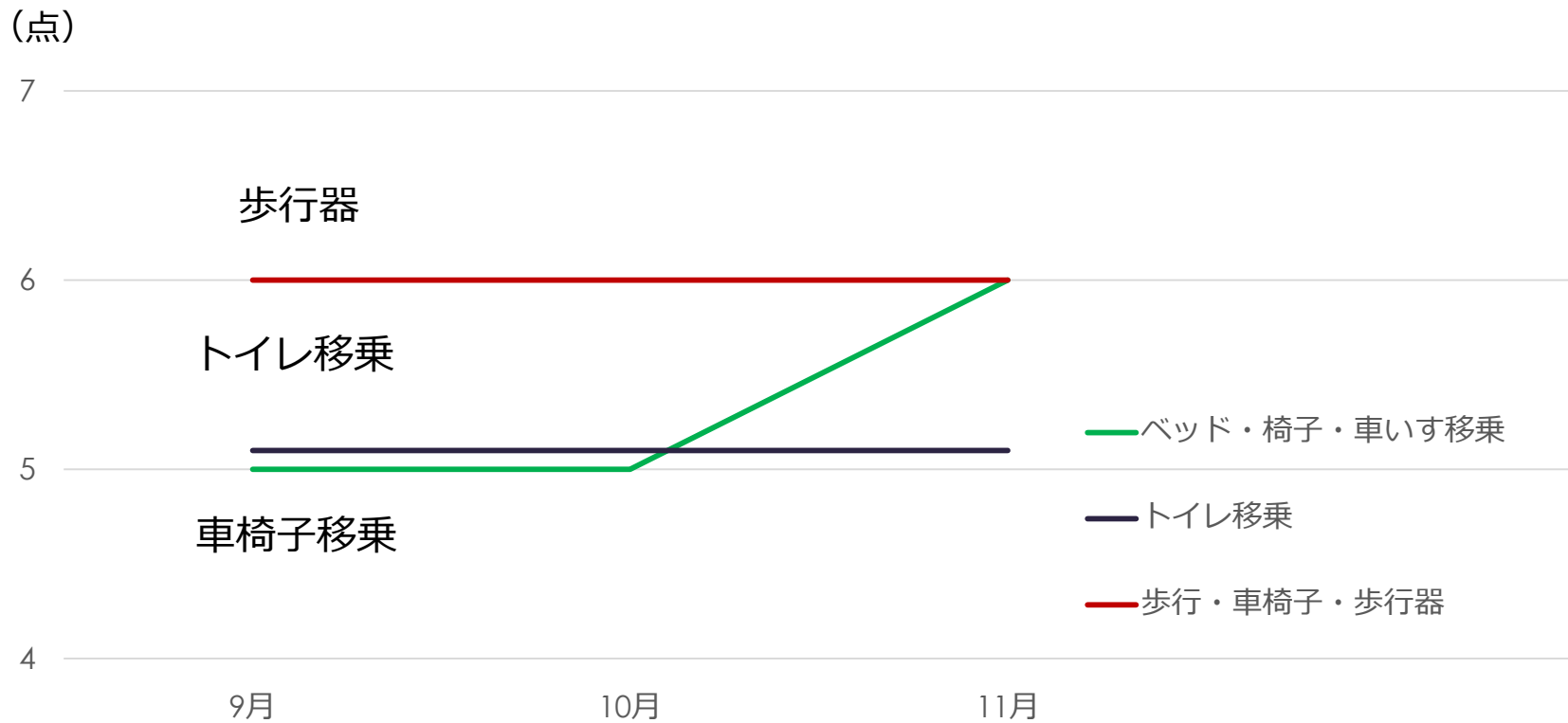
【方法】

透析開始よりエルゴメーターによる下肢運動を施行.

メニューは自走10分5分休憩を2セット.
エルゴ中は除水OFF (透析のみ施行)

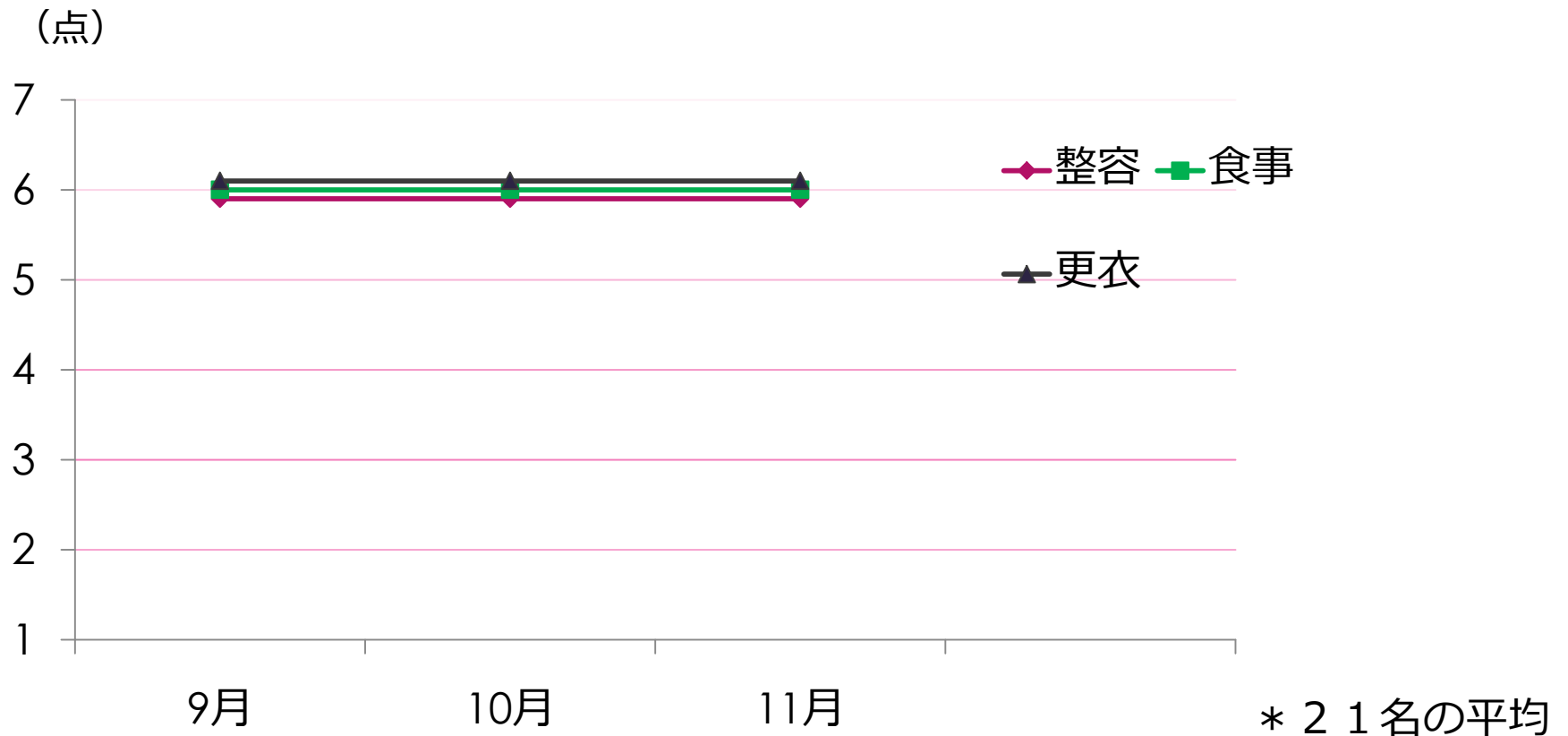
1ヵ月毎にFIMを用いて調査し評価した.

【結果・運動項目】

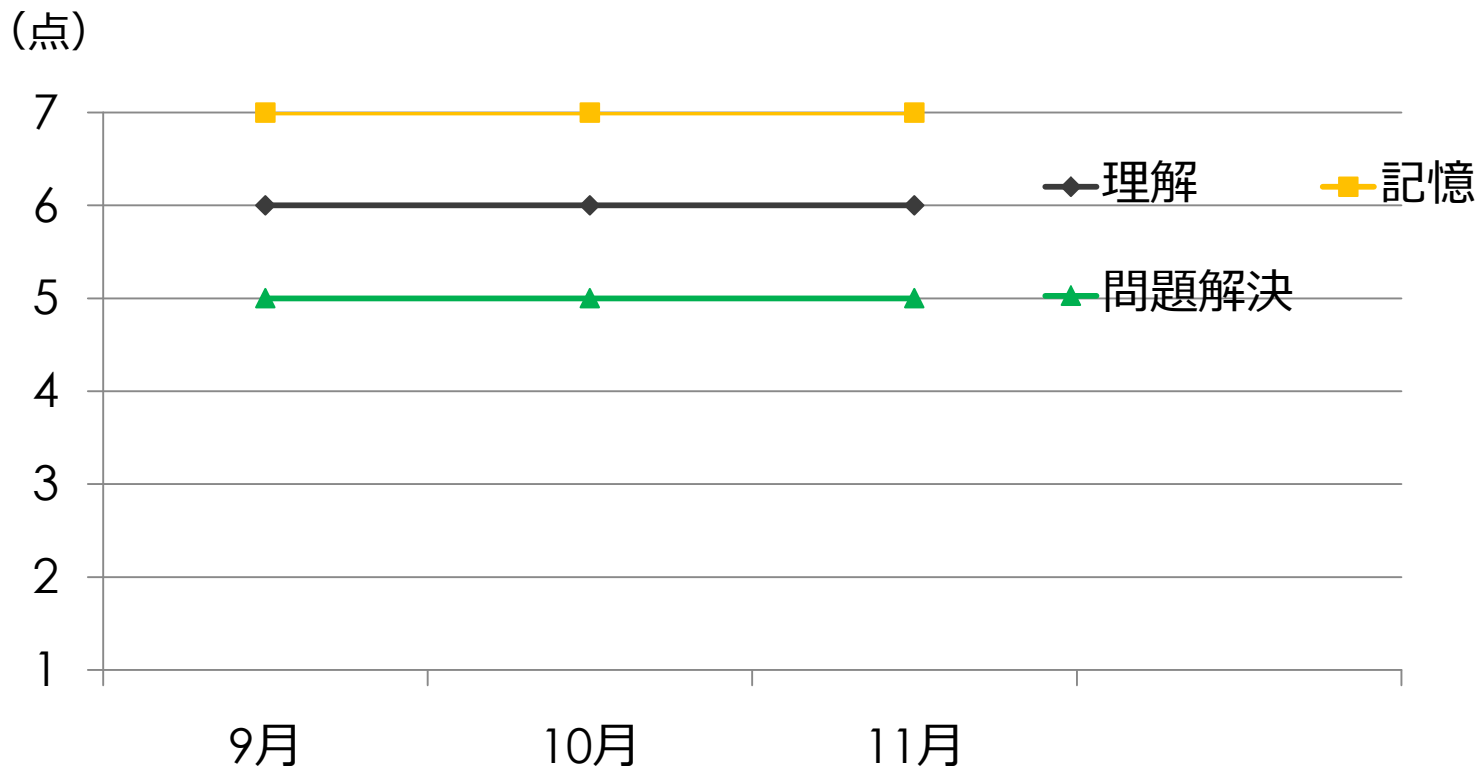


* 21名の平均

【結果・セルフケア】



【結果・認知項目】



* 21名の平均

【結果まとめ①】

運動項目

「ベッド・椅子・車椅子移乗」

最も良いスコアの改善が 3点→5点
平均で1点上がった。

「トイレ移乗」

最も良いスコアの改善が4点→5点
平均では変化は見られなかった。

【結果まとめ②】

セルフケア項目

「食事」 平均では変化は見られなかった

「整容」 最も良いスコア改善が5点→6点
平均では変化は見られなかった

「更衣」 最も良いスコア改善が4点→5点
平均では変化は見られなかった

整容・更衣においてスコアの改善あり

【結果まとめ③】

認知項目

「理解」 平均では変化は見られなかった

「記憶」 平均では変化は見られなかった

「問題解決」 平均では変化は見られなかった

補足として、体組成計の骨格筋量の項目で最も効果が表れた症例では、15.0kg→23.6kg
平均19.2kg→27.0kgと改善が見られた。

【考察】

エルゴメーターによる下肢運動の導入により、移乗・歩行の項目で変化が見られたのは、運動による下肢筋力の増強によるものと推察される。整容・更衣の項目で変化が見られたのも、下肢運動により運動耐性が向上し、透析終了後の倦怠感・虚脱感が軽減したことに起因していると思われる。

腎臓リハビリテーションの導入により、FIMのスコア改善がみられ、透析患者に対してサルコペニアの予防につながる可能性が考えられた。

今後はレジスタンス運動を併用し、変化を継続的に評価、解析していきたい。

【結語】

腎臓リハビリテーションの介入は、透析患者の主観的・身体機能の維持・向上などに一定の効果があることが分かった。

今後もADLを維持・向上させる手段としてアプローチしていきたい。

第7回日本腎臓リハビリ テーション学会 COI 開示

筆頭発表者 横山和子

この演題発表に関し、COI 開示すべき関連企業はありません。